

「腎生検ガイドブック」日本腎臓学会誌への公開について

日本腎臓学会 渉外・企画委員長 菱田 明

日本腎臓学会は腎臓病学の進歩，日常診療の充実をめざし，腎臓専門医や一般医を対象としたガイドラインや診療指針などをまとめ，発表してまいりましたが，今回，日本腎臓学会誌に「腎生検ガイドブック」を連載することとなりました。

この「腎生検ガイドブック」は2002年に渉外・企画委員会の中に作られました腎生検検討委員会（平方秀樹委員長）が2年の歳月をかけて編集され，2004年「腎生検ガイドブック」として出版されたものであります。

「腎生検検討委員会」は，「より安全な腎生検の施行のためのガイドライン作成」を目指し，全国の日本腎臓学会研修指定施設への腎生検に関するアンケート調査を行い，わが国における腎生検の実態を把握したうえで，その結果を参考にして「腎生検ガイドブック」としてまとめられたものであります。

ガイドブック作成の過程では，実際に腎生検を行っておられる医師が概ね了解できる内容であることに留意し作成されました。腎臓学の分野で欠くことのできない検査法である腎生検について，特に，その適応・禁忌や手技について，大まかな合意はあるものの細部に至るすべてにおいて意見の一致があるわけではありません。このことは，腎生検に限らず多くの医療行為についても同じことが言えると思われまます。医療が進歩し続けるために，常に新しい試みがなされていくことが要求されている以上，完全な一致を得ることはあり得ないとも言えます。しかし，過去の経験を踏まえ大多数の医師の考え方や実際の手技をまとめ公表していくことは，「医療の安全の確保」という観点からは重要なことと考えられます。その意味で，日本腎臓学会が主導し，多くの会員の方から寄せられた意見をもとにして「腎生検ガイドブック」を発行できたことは，極めて意義深いものと考えられます。これから腎生検の手技を学ぼうとする医師や，すでに腎生検を行っておられこの機会に「自らの考え方や手技を見直ししようとされる」医師にとってもお役に立てるものと思っています。

2004年に「腎生検ガイドブック」を冊子として出版した後，会員の方から，「日本腎臓学会として作成したものであり，安全に関わる内容でもある」ことから，会員のすべてが見られる形で「日本腎臓学会会員には広く公表すべき」というご意見を戴きました。日本腎臓学会は広報委員会・渉外・企画委員会を中心にこの問題を討議し，患者さん向けや一般医向けに冊子として出版するものなど例外はあり得るものの，「日本腎臓学会会員が知っておくべきガイドラインや診療指針などは会員が自由に見られる形で日本腎臓学会誌やホームページで発表することを今後の方針とする」ことを理事会で決定致しました。

今回の連載は，こうした考え方にのっとり，冊子として発行した「腎生検ガイドブック」を日本腎臓学会誌に転載することとなりました。今後も日本腎臓学会としてガイドラインなどを編集して

いきますが、学会が周知しておくべき内容については学会誌などに公表していくことになります。ただし、内容によっては、患者さんや日本腎臓学会の会員でない医師の方々が読みやすい冊子として発行されていくものもあり得ますので、書籍として一般に販売するものと学会誌に掲載されるものが全く同一でない場合もありうることはご理解いただきますようお願いいたします。

本シリーズが広く日本腎臓学会会員の皆様に周知され、「より安全な腎生検」が徹底されることを願ってやみません。また、内容をご覧いただき改正すべき点などについてご意見をいただければ、改訂を進める作業などに役立てていきたいと思っております。